

俳句で綴る『東日本大震災から13年』

～絵日記代わりの「写真五七五」～

山極 時生



小生が俳句を始めたのは一九九八年の我孫子での部長研修からである。事前宿題の作句と

引地冬樹先生(日立工場出身の大先輩)の「俳句はじめ」の講義がトリガとなり、先生主宰の「筑波」への入会に始まる。「日記代わりの作句」と言うことで、先生からも続けなさいとの言葉をいただいていた。社友クラブに入ってから「写真五七五」に「絵日記代わりの作句」として参加を続けている。

東日本大震災の日から二〇二四年三月十一日で十三年となった。震災当日はベルリンのジーマンス社にて電力国際会議の「UHV委員会」が開催されており、日本からも多くのメンバーが出席していた。今回はその時の出来事とその後の思いを詠み込んだ俳句を紹介する。

当日はベルリンの朝であり、ホテルの部屋で持参したパソコンで「NHKワールド」を視ていた。「日本で大震災」とのニュースが出た。そして、朝のテレビニュースでは「日立久慈港のモータープール(輸出用自家用新車を集結)」が映し出され、多くの新車が津波で押し流される光景が放映された。

『春暁や大津波知る異国の地』
会社と個人携帯の二台で自宅に電話を掛けるが全く通じない。他の参加者も同様であった。

長野県の実家からは「何でお前の電話は通じるのか!」今、ドイツのベルリンに出張中です!家族に電話が通じません!と応えるのみ。東京に住んでいる子供たちからはパソコン

へのメールが断片的に入った。その中に「ヤフーで『地震、日立』と検索したら、国分工場本館の4階が倒壊した!との情報がヒットした」とのメールがあった。(後で分かったが、当日、UHV関係の取材でサンケイ新聞が工場を訪問し、被災状況を報道していた)

『我が職場倒壊を知る余寒かな』
翌三月十二日、六時間遅れであったがパリから帰国の日本航空便が出てくれた。羽田に十三日の正午に着したが、JR常磐線・高

速常磐道共不通! 東京の子供たちも母が心配と、長男の車で次女と三名で日立に向かった。六号国道を



北へ向かったが、渋滞がひどい!暫くしてから気が付いたが、渋滞を気にせず、追い越して進めばよいのである。渋滞はガソリンスタンドへの順番待ちであった。これが何か所もあった。

『足断たれガソリン渋滞春の宵』
また、喉も乾きトイレも行きたくなり、コンビニに立ち寄るが、棚にはモノがなし!、通常東京から日立の自宅までは高速使用では二時間半であるが、十二時間掛かって何とか自宅に零時に到着した。丁度電気が復帰したとのことであった。流石に東電さん頑張ったなど感謝!

家はオール電化をした直後であり、石油ストーブは物置の奥に仕舞込んでいた。家内にはこれを出すこ

とができず、車の中で過ごしたとのことであった。(現在、石油ストーブは直ぐ出せるところに移動、電気以外の熱源は大切である!)

翌三月十四日は家の中と周囲の片づけを実施。幸いにも戸棚が倒れたりしたものもなく、壁に掛けたものや棚に置いたものは落下していた。道路側の1.5メートル高の石塀も門の位置が多少ズレたのみで、倒壊は免れた。隣家の屋根瓦が庭に散乱していたのには驚いた。

水道が止まっており、一キロメートル先の魚屋までポリタンクを持参し貰い水を行った。自宅関連に関しては取りあえずの片付けが終わり、翌十五日には工場に向かった。建屋や設備の被害が大きく、暫くは仕事ができないとのこと、十六日には東京板橋の別宅に移動を決め、当面本社勤務とした。

『災地逃げ春の都へ疎開かな』
本社では災害復旧の仕事関係を担当し、電力会社と社内担当部署との仲介役を行った。一ヶ月ほどして日立の実家に向向いたが、庭の花々は何もなくつたように咲いていた。

『久々に戻りし庭は常の花』
五月の連休明けにプレハブの執務室が完成し、ここでの仕事を本館が新築される二〇一二年十一月まで行った。四階建ての本館が完成し、新たな執務場所での仕事を開始した。

『小春日や新館に入る復興日』
夕々に戻りし庭は常の花 時生



昨年は大震災から十二年目に当たる。日々の早朝ウオーキングで出向いた海岸には、嵩上げされた防潮堤は常に目に入るが、テトラポッドの部分をよく見ると、普段気づかなかったが、震災時に打上げられた流木が点々と残っていた。

『春の浜流木残し十二年』
また、誰が積み上げたか小石の像が日の出前の水平線を見つめていた。震災の犠牲者に祈りを捧げるように感じた。

『春暁や震災折る積み石像』
海のそばに生きる限り津波の心配は尽きない。茨城沖は地震の巣でもあり地震に慣れてきていなければならない。今年「辰年」の元日に「能登半島地震」が発生した。

『年明けの地震の文字に「辰」が棲み』
「写真五七五」を通じて絵日記代わりの自分史を積み上げて行きたい。



山極時生氏 連絡先

日立市大沼町
電話: 090-6033-3634
tokio.yamagiwa@gmail.com

リレー随筆 (88)

日本酒に凝ってソムリエになる 佐藤 朝美



■血筋のせい?

私の父も母も東北出身ということもあって日本酒が大好きでした。毎晩飲んでいました。でも、父が『巨人の星』の星一徹のようにちやぶ台返しをしたことがあったので、子どものころは日本酒にはあまりいい印象はありませんでした。それが還暦を迎えるころ、知り合いから日本酒について説明を受け、飲み方を教わり、酒蔵までつれて行ってもらい手ほどきを受けました。

血筋のせいか、それから日本酒を飲むようになりました。ただ飲むだけでなく、勉強して大井川県知事から「いばらき地酒ソムリエ」という称号をいただきました。

ここでは日本酒の「いろはのい」をふたっだけ紹介します。

■精米歩合

酒米は、外側にタンパク質や脂肪など酒の雑味の原因になる成分が含まれています。これを削り、中心部を残すことを精米といいます。どれだけ削ったかを表す割合が精米歩合です。精米歩合70%は、外側を30%削って70%を残したという意味です。この精米歩合で日本酒の凡その骨格が決まります。純米大吟醸酒は50%以下、純米吟醸酒は60%以下、純米酒は規定なし。



いばらき地酒ソムリエ認定証

アルコール添加では、大吟醸酒 50%以下、吟醸酒 60%以下、本醸造酒 70%以下となっています。

■日本酒度

日本酒にはいろいろな味があります。甘い、辛いはその代表的な味の表現です。この甘辛を表す指標が日本酒度です。日本酒度プラスは辛口傾向、マイナスは甘口傾向とされています。

日本酒のラベルにはこの他に「無濾過生原酒」「生酒」「生貯蔵酒」「生詰め酒」「山廃」「冷やおろし」「火入れ」「あらばしり」「袋吊り」などいろいろなことばが表示されています。日本酒のあじわいは複雑ですから、どれが自分の好みに合っているかを知っておくと日本酒選びが楽しくなります。

■利き酒会

常陸多賀駅近くにある小さな居酒屋で開催される利き酒会に毎回参加しています。今年2月に第103回利き酒会が開催されました。職場の皆さんと貸し切り状態で立春朝搾りの日本酒を楽しんできました。全国の日本酒が15種類以上出てきます。おちょこで少しずつ飲んでも3合以上飲むことになりました。ほぼ飲み放題です。一升瓶が15本並んだ光景はもう圧巻です。



一升瓶が15本

日本の平均寿命(男性)まであと10年。そのときに日本全国の日本酒を全部飲んでみたいものだと、毎晩「精進」しています。

同好会行事に参加して

「野鳥・自然観察」

笹島 弘



十年ほど前、先輩から野鳥クラブへ誘われ入会した。月1度の探鳥会では近郊の野鳥の習性等を詳しく教えていただき楽しい時を過ごした。人並みに望遠鏡(700mm)や重い双眼鏡等を購入し、喜んでいたのも束の間で腰痛が酷くなりお蔵入りし、小さなカメラで腰を曲げ泣いている昨今です。そのころ始めたのがシジュウカラの営巣観察への挑戦でした。夏休みの孫たちと参加して作った巣箱を、冬に庭の杏の木に取付けた所、ペアのシジュウカラが巣箱の周りや入り口を真面目に点検し帰っていった。契約はしてないが来春を楽しみにしているよ！忘れかけていた4月の初め、あのペアが挨拶もなく巣箱に出入りしているではないか。嬉しいより感激した。巣立ちまでのルーティンである巣材運び、巣床作り、産卵、抱卵、給餌、巣立ちまで、約3ヶ月間観察した。このペアは子育てに慣れているようで、タイミングよく交代しながら子育てをしていた。でも子育ては大変な作業だと思う。何とか巣箱の中を見たい。親の外出を見図って巣箱の屋根を開けた途端、雛が爆発的に飛び出した。2階の雨樋、ベランダ、近くの木々、地面の藪等に避難したらしい。親が戻り大きな声で避難指示を発令している。御免な親鳥、雛鳥(7羽)の皆さん。暗くなる前に親の案内で森に戻ったようだ。その後二年程は問題なく巣立ちできたようだ。去

年はスズメが先着優先で巣立った。今年は悲惨なトラブルが起きた。母親が他のペアに殺害され雛は餓死。自然の摂理とはいえ残念。

「歩こう会」

木暮 澄夫



今年、米寿を迎えこれまでを振り返ると、よくもこの年まで健康でいられたと思っています。何故なら、40代に日立病院で人間ドックを受け、コレステロール値が400前後と極めて高いことがわかり治療を始めましたが、当時は有効な治療薬がなく、思うように数値が低下しなかったからです。50代になってようやく特効薬が出てきましたが、それでも十分に低下せず、せいぜい還暦ぐらいまで生きられればと思っていました。対策として歩くことが有効と言われており、現役の頃は色々なゴルフ同好会に参加していましたが、定年になって社友クラブ「歩こう会」があることがわかりました。

10,000歩歩くことが必要と一般に言われておりますが、いざ歩こうとすると3,000歩程度まではたやすく歩けますが、5,000歩となるとかなり努力が必要となり、10,000歩は到底達成できないことがわかりました。「歩こう会」で幹事の方が設定したルート仲間と一緒に歩くことが目標達成の唯一の手段であります。

幹事の方のルート設定とその案内のご苦勞に感謝しつつ、今後とも体力の許す限り参加したいと思っています。

同好会の行事ご案内（8月～10月）

1. 第90回研修会

【原子力災害伝承館、東電廃炉資料館、他見学】

福島県双葉町に令和2年に開館し、災害の実態と復興の歩みを展示している「原子力災害伝承館」と「東京電力(株)廃炉資料館」、震災遺構として残っている「浪江町立請戸小学校」を見学します。

- ・開催日：令和6年9月12日(木)
- ・集合：大みか駅前(東口) 8:00
日立南ドライブイン 8:15
- ・帰着：大みか駅前(東口) 17:00頃の予定
- ・会費：10,000円の予定(バス、昼食代、他)
- ・募集人員：25名(20名以上の参加で実施)
- ・申込締切：7月31日(水)
- ・申込先：石田和夫
- ・Tel/Fax：0294-34-0209 携帯080-5087-2555
E-mail：ishida.kazuo@nifty.com

2. 第98回歩こう会【ひたちなか市、磯崎海岸】

美乃浜学園駅を出発して、磯崎海岸を歩き、神社、史跡などを巡り、阿字ヶ浦駅まで歩きます。

- ・開催日：9月26日(木) 雨天10月11日(金)
- ・集合：ひたちなか海浜鉄道美乃浜学園駅10:10
- ・コース：美乃浜学園駅→浪切不動尊→観瀾所→磯崎灯台(昼食)→酒列磯前神社→比観亭跡→木花咲耶姫神社→川子塚古墳→堀出神社→ほしいも神社→阿字ヶ浦駅(距離5.8km)
- ・持参品：昼食、飲物、雨具、マスクなど
- ・申込締切：9月19日(木) ・会費：会員200円
- ・申込先：小野瀬秀夫
- ・Tel/Fax：029-282-4124
- ・E-mail：h1941.0830.onose@tenor.ocn.ne.jp

第100回記念歩こう会の予告

令和7年4月4日 「水戸八景めぐり」
徳川斉昭が選定した水戸八景をバスも利用してすべて巡ります。ご期待下さい。

3. 定例行事予定一覧（開催日・場所・時間などは各グループより、別途茨ネット等により連絡いたします）

グループ名	連絡先	実施予定日(曜日)			場 所	時 間	備 考
		8月	9月	10月			
野鳥・自然観察グループ	石川 皓 0294-53-7064 aishikajp@ybb.ne.jp	(休)			—	—	参加費：¥300/回 原則雨天中止
			23(月)		栗原	9:00～12:00	
				21(月)	久慈川(JR鉄橋)	7:00～11:00	
囲碁の会	真鳥岩男 0294-74-5285 sp8k8z59@lake.ocn.ne.jp	23(金) 28(水) 30(金)	11(水)大会 25(水) 27(金)	9(水) 23(水) 25(金)	大みか拠点	9:30～16:00	参加費：¥100/回 大会：¥1000 (昼食費含む)
	七海 清 029-273-8450 fwny8718@nifty.com	15(木)	19(木)	17(木)大会	大島コミュニティセンター	9:00～	参加費：¥200/回 大会：¥700
料理教室	並木慎一郎 029-283-1476 s-namiki@themis.ocn.ne.jp	26(月)	30(月)	28(月)	らぼーるひたち	9:30～	参加費：¥1700/回
卓球クラブ	村上勝雄 0294-24-2430 mkattyan@net1.jway.ne.jp	21, 28(水)	4, 11 18(水)	2, 9, 16(水)	会瀬体育館	9:00～12:00	参加費, 会場費等 まとめ：¥4500/年
デジカメクラブ	溝口忠憲 029-219-6576 mizogut@beach.ocn.ne.jp	6(火)	3(火)	1(火)	大みか拠点	10:00～15:00	参加費：¥1000/回 昼食費含む
写真五七五	細江 徹 0294-42-9126 tohru92@road.ocn.ne.jp	2(金)	6(金)	4(金)	大みか拠点	9:30～13:00	参加費：¥300/回 昼食別途
勝田パソコン	佐々木六漏 029-275-2567 sasak6318@nifty.com	27(火)	24(火)	22(火)	ひたちなか市ワークプラザ	13:15～16:00	参加費：¥500/回

(注)・旅行会(連絡先；溝口忠憲)は開催が不定期なので、茨ネットを通じて開催をご案内しています。

訃報 誠に残念ですが、苦楽を共にした次の方がお亡くなりになりました。

佐藤 隆史	令和5年	6月13日	満86歳
大場 敏夫	令和6年	3月20日	満86歳
會津 正	令和6年	4月13日	満87歳
萩原 茂	令和6年	4月21日	満92歳
島田 勇一	令和6年	5月21日	満83歳
相山 繁	令和6年	6月25日	満66歳
福岡 勝	令和6年	6月25日	満86歳

編集後記 茨城支部総会は例年同等の会員参加を得て盛会で会員の相互親交親睦や社会参画貢献活動が本格化します。支部便りは会員の活動体験や知見等の情報交換手段として活用頂けると考えます。本便りでも、「写真五七五」同好会に参加されている山際さんの東日本大震災時の貴重な体験の記事は大災害時の教訓としたいものです。笹島さんのお孫さんとの巣箱設置と野鳥観察も生存競争の厳しさを実感しましたし、佐藤さんの日本酒に関する蘊蓄も興味深いです。 **瀧澤 照廣**